

# 須留が峰



校訓 「自立 協同 創造」  
校是 「生きるとは 分かちあうこと」

養父市立養父中学校 学校だより  
(令和7年9月22日) 第20号

学校教育目標「しなやかな強さをもち 協働的・創造的に活動できる生徒の育成」

## 全国学力・学習状況調査結果⑤

国語・数学に続いて理科の調査結果についてお知らせします。今号をもちまして、今年度の全国学力・学習状況調査結果に関する報告を終わります。



◆理科 全体平均正答率:全国・県数値を下回る。

【養父中学校の生徒の特徴と今後の展望等】※本校教員による分析・考察

### ○「電気回路」に関する問題において成果

・教科書に記載されている実験を生徒全員が丁寧に実施したことが、知識の定着に繋がった。ただ実験を行うだけでなく、生徒自身が実験器具に触れ、考察を深め、レポートにまとめるという一連のプロセスが、単なる暗記ではない本質的な理解を促した。特に、班員で協議しながら学習を進めたことが、多様な視点からの考察が生まれ、より深い学びになったと考えられる。

### ○「地層」に関する問題において成果

・動画資料を活用したことは、視覚的に地層の構造や水の流れを理解する上で非常に有効だった。地層に関する練習問題に繰り返し取り組んだことも、重要な要素だった。また、個人や協働学習において、多様なパターンの問題に触れることで、地層の性質と水の流れの関係性を多角的に捉える力が養われ、実際の現象と結びつけて考える力が向上したと考えられる。今回における高正答率には、小学校での地層に関する学習がしっかり定着していたことも大きく寄与していると考えられる。

### △「生物の呼吸」「気圧」に関する問題において課題

- ・学習内容が多岐にわたり、一つひとつの内容を深く掘り下げて理解する時間が不足しがちなのが悩みである。これにより、知識を十分に消化しきれず、表面的な理解に留まってしまう可能性がある。協働学習を取り入れた練習問題の実施や復習は、知識の定着に非常に有効だが、限られた授業時間の中で、これらの時間を十分に確保しにくい現状があり、結果として、学んだ内容が定着しきらず、応用力や実践力に繋がりにくい。家庭学習が十分に身につけていない生徒が多いことも大きな課題。予習・復習の習慣がないため、授業内容の理解が不十分なまま次の単元に進んでしまい、学習内容が積みあがっていくにつれて躓きやすいと思う。
- ・宿題が本来の目的を果たせていないことも課題。宿題の出し方やあり方も考えていく必要がある。例えば、自ら考えて取り組むようになるような宿題の作成や全員一律の宿題ではなく、生徒の理解度や習熟度に応じた個別の課題を出すなど検討の余地はある。デジタル教材の活用も検討していきたい。
- ・レポート作成が個人や班員だけのものにならないように、全体で共有したり、考察したりすることのできる機会を設ける。なるべく多くの実験や身近な現象と結びつけ、興味関心を持たせ、主体的に学ぶ生徒を増やしたい。

## ◆総括

同時に行われた国語に関する生徒質問調査では、8割近くの生徒が「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答しています。いっぽう、「国語の勉強は得意ですか」「国語の勉強は好きですか」の問いでは、「得意です」「好き」が5割程度に下がってしまいます。

おなじく、数学に関する生徒質問調査では、7割近くの生徒が「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答しています。いっぽう、「数学の勉強は得意ですか」「数学の勉強は好きですか」の問いでは、「得意です」「好き」が5割から6割程度に下がってしまいます。

さらに、理科に関する生徒質問調査では、5割5分以上の生徒が「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答しています。いっぽう、「理科の勉強は得意ですか」「理科の勉強は好きですか」の問いでは、「得意です」「好き」が3割から5割弱程度に下がってしまいます。「勉強が大切であるのは分かるが、やはり勉強は嫌いだ」という感情は昔も今も変わらないということなのでしょう。生徒の気持ちは私もよく分かります。(笑)

一説には、生徒の生活状況と学力との関係において、スマートフォンなどで SNS や動画視聴を行う時間が長いほど、学力低下を招きやすいなどともよく言われます。いっぽうで、読書の時間や新聞を読む時間をしっかりと確保している生徒ほど学力が高くなるとも言われています。学校としては、過去の学校だより「須留が峰」でもお伝えしてきたように、中学生のスマートフォンおよびSNS利用に関する指導は随時行っていますが、そもそもスマートフォンやSNSを所持・利用させておられるのはそれぞれのご家庭ですから、その結果についての最も大きな責任を有するのは保護者の皆様であることをあらためてご認識いただく必要があろうかと思えます。現に養父中学校でも、春以降、スマートフォンに関するトラブルが起きていますし、スマートフォン利用の時間が長くて生活リズムが大きく崩れてしまっている生徒がいます。各ご家庭のルール整備をしていただくことが急務です。並行して、朝食をきちんと摂る、就寝時刻や起床時刻を安定させる、社会に関心を持たせ、役に立ちたいという感情を育てるなどといった事柄が学力向上につながっていくことも忘れずにいたいと思えます。

なお、全国学力・学習状況調査は、教師の授業改善に役立てるために行われているものであり、私たち教師は生徒に感謝しなくてはなりません。けっして個人を比較するものでもなければ、学校や地域、そして、都道府県を比較して一喜一憂するものでもありません。調査に協力してくれた3年生生徒に対してあらためて感謝の意を表します。



※全国学力・学習状況調査は、教育活動及び学力の一側面を調査した結果にすぎず、今回の結果が児童生徒の実態、学校教育、家庭教育のすべてを評価しているものではないということを申し添えます。